

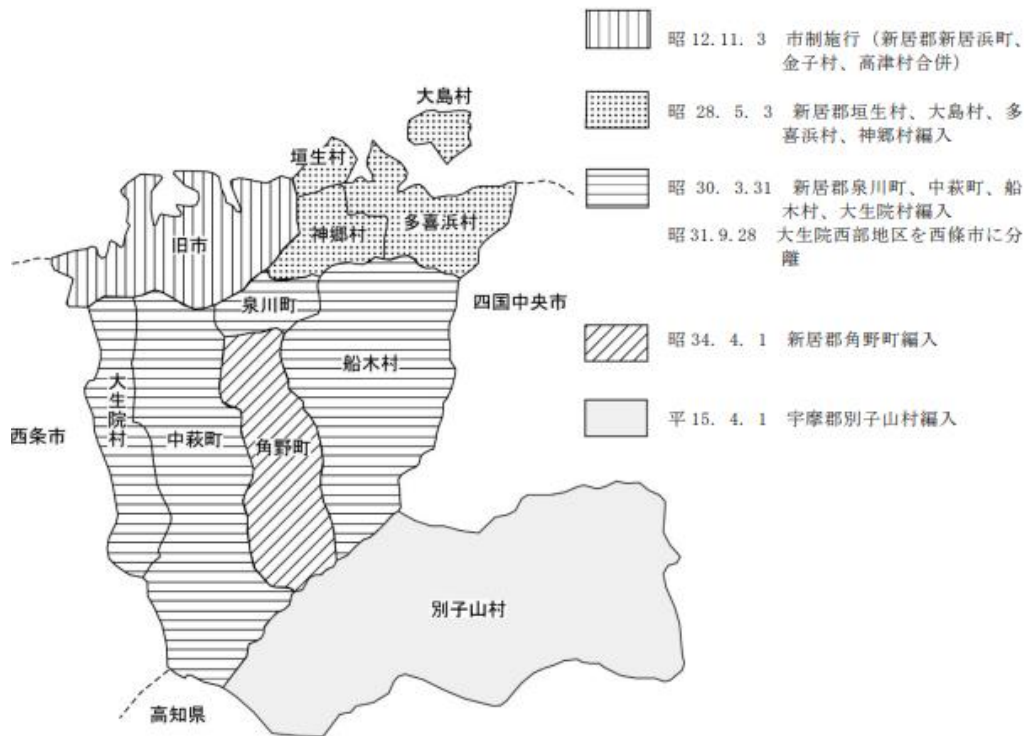
第2章 新居浜市の概況

(1) 地理的特性

新居浜市は、愛媛県の東部に位置し、東は四国中央市、西は西条市、南は四国山地を境に高知県、北は瀬戸内海の燧灘に面している。市域の北半分には新居浜平野が広がり、市街地が形成されている。沿岸部には工業地帯が集積している。新居浜平野の南縁では中央構造線に沿うように四国山地が連なっているため、市域の南半分は山間地である。気候は瀬戸内式気候で、年間平均気温 17.1 度（平成 30 年）と年間を通して温暖である。

市域は東西 20.52 km、南北 21.48 km で、面積 234.50 km² となっている。新居浜市は昭和 12 年の市政施行から合併・編入を行い、平成 15 年に別子山村を編入して現在の市域にいたった。市街地の中心を流れる国領川の西側は川西地区、東側は川東地区、JR の路線より南側は上部地区と呼ばれる。大永山トンネルを越えた南方に別子山地区がある。

図表 2-1 市域の変遷図



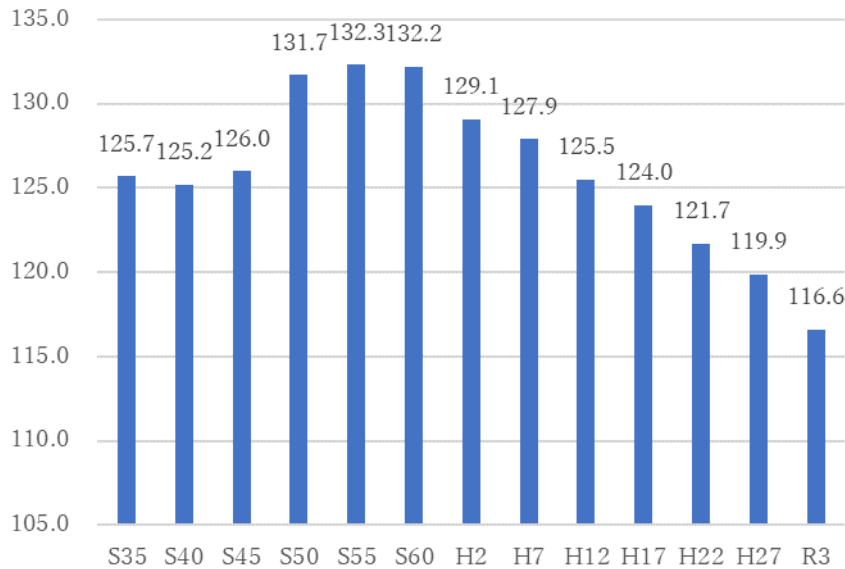
出典：新居浜市都市計画マスタープラン

(2) 人口特性

人口は昭和 55 年をピークに減少傾向となり、直近の 5 年間（平成 30 年から令和 3 年）では 2% 減となっており、令和 3 年現在で 116,624 人となっている。

図表 2-2 人口の推移

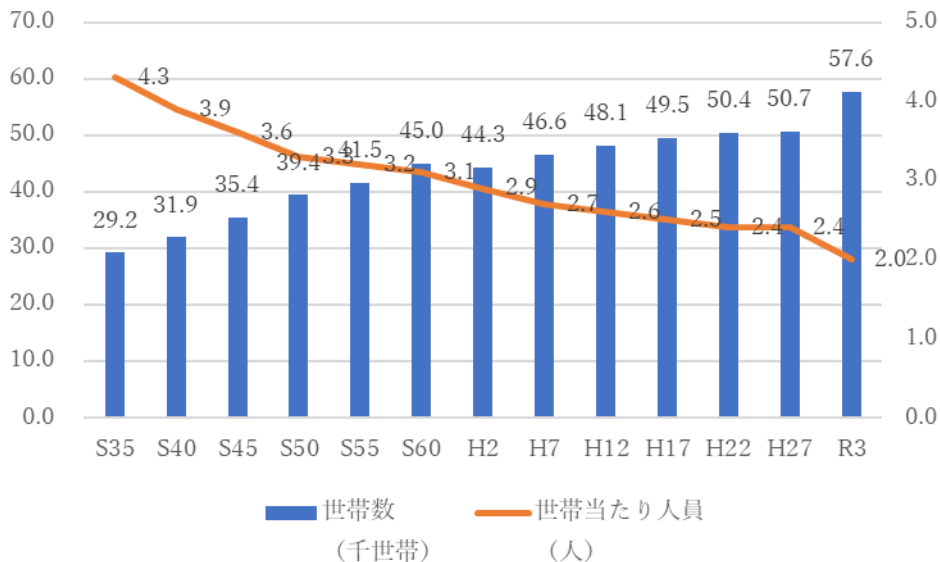
単位：千人



出典：国勢調査、新居浜市 HP

世帯数は、核家族化を反映して増加しており、令和 3 年には 57,614 世帯となっている。また、世帯当たりの人員は 2 人/世帯まで減少している。

図表 2-3 世帯数および世帯当たり人員の推移

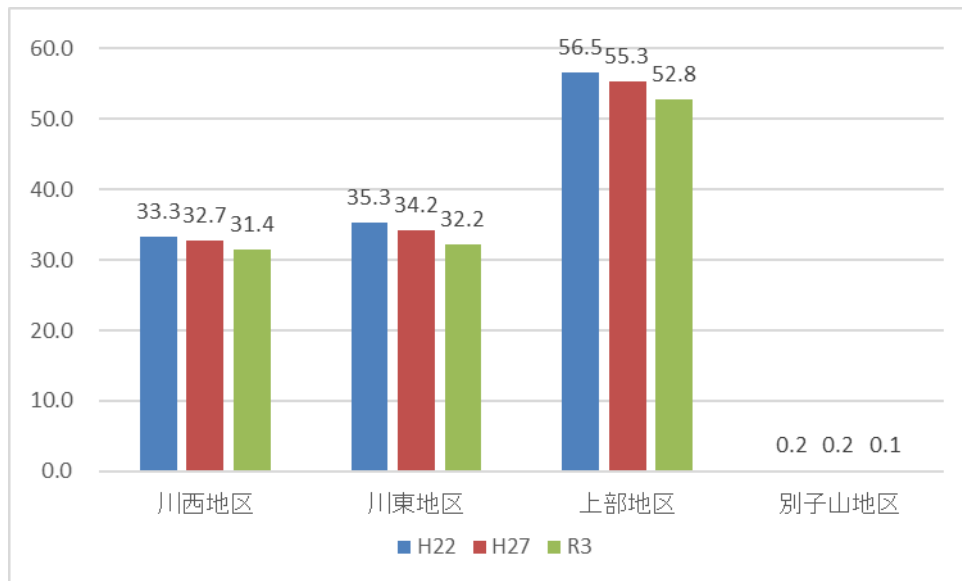


出典：国勢調査、新居浜市 HP

地区別人口をみると、令和3年現在川西地区が31,423人、川東地区が32,232人、上部地区が52,832人、別子山地区が128人となっている。

図表 2-4 地区別人口の推移

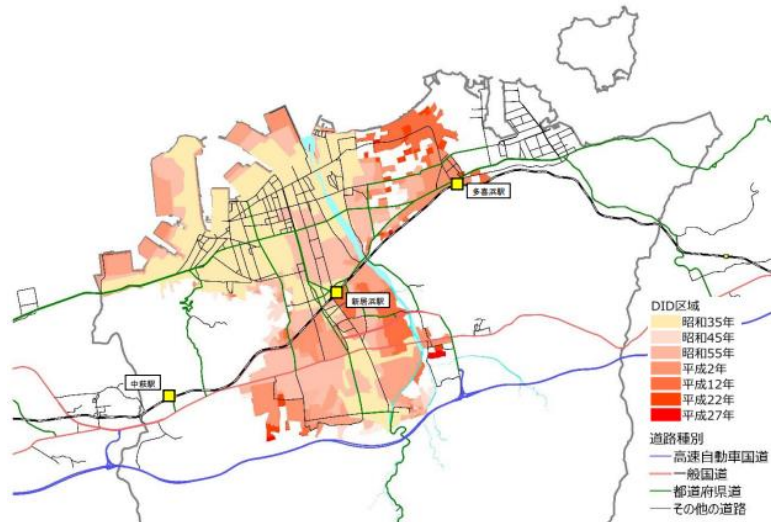
単位：千人



出典：住民基本台帳

新居浜市の人口集中地区の人口は令和2年時点84,290人で、平成27年より2.8%減少している。人口集中地区は平成以降、川東地区の八幡周辺と新居浜駅周辺に拡大している。ただし、人口集中地区の人口密度は減少傾向にあり、市街地が低密に拡大している。

図表 2-5 人口集中地区の推移



出典：国勢調査、統計地理情報

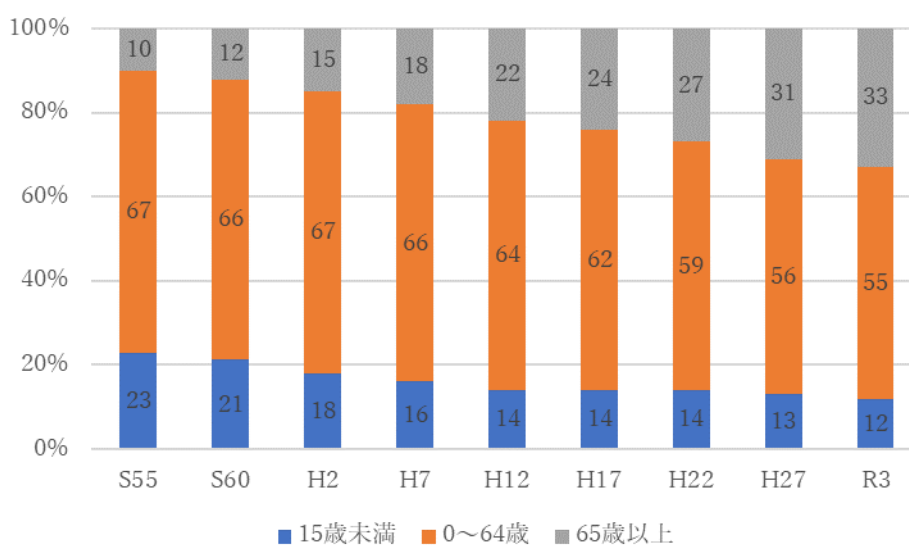
図表 2-6 人口集中地区の面積、人口、人口密度の推移

人口（総数）		平成 27 年～令和 2 年の人口増減		面積 (km ²)	人口密度 (1 km ² 当たり)
令和 2 年	平成 27 年	人口増減数 (人)	人口増減率 (%)		
84,290	86,704	-2,414	-2.8	29.08	2,898.6

出典：令和 2 年国勢調査工業統計調査

年齢別人口構成をみると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15 歳～64 歳）はいずれも減少し、令和 3 年の構成比は年少人口が 12%、生産年齢人口が 55%となっている。これは、出生率の低下などによる年少人口の減少と、転出等による生産年齢人口の減少に起因すると思われる。これに対し、老年人口（65 歳以上）の増加は著しく、令和 3 年の構成比は 33%となっている。

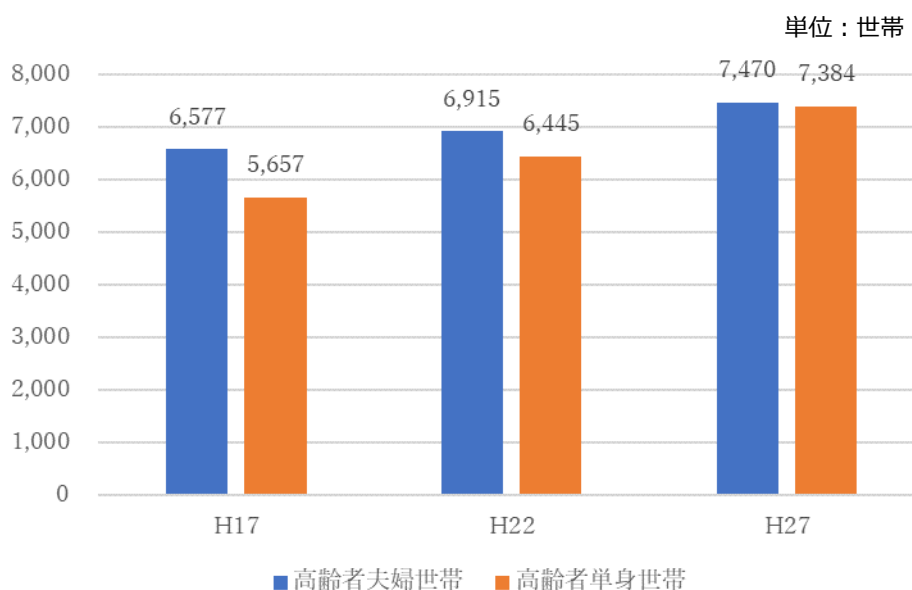
図表 2-7 年齢別人口の推移



出典：国勢調査、新居浜市 HP

高齢者世帯数をみると、平成 17 年から平成 27 年の間で、高齢者夫婦世帯は 13.6%増、高齢者単身世帯は 30.5%増と急速に増えている。

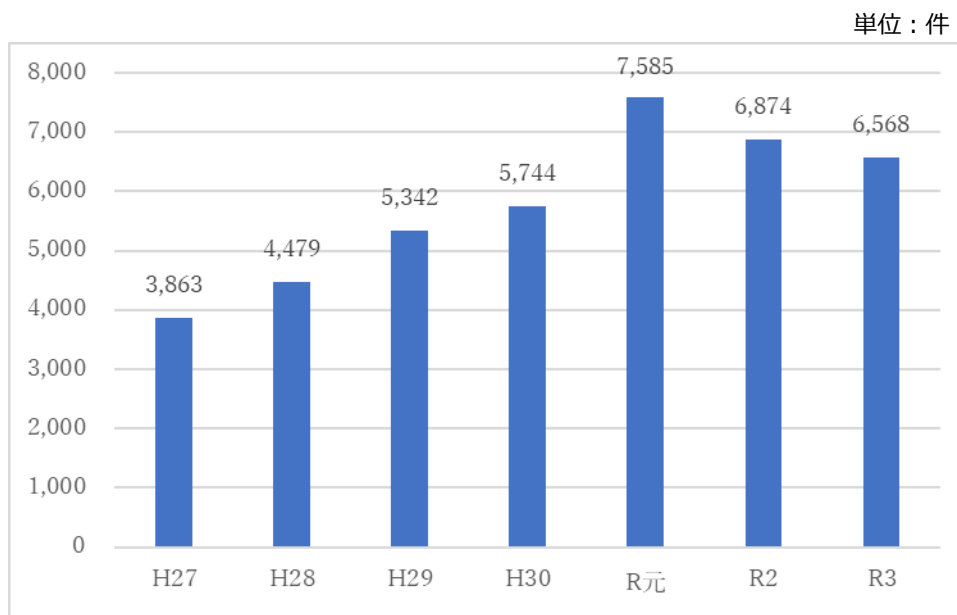
図表 2-8 高齢者世帯数の推移



出典：総務省統計局『統計でみる市区町村のすがた』

愛媛県の65歳以上の申請免許取消件数をみると、平成27年の3,863件から増加し、令和元年は7,585件、令和2、3年も6,500件を超える水準で推移している。

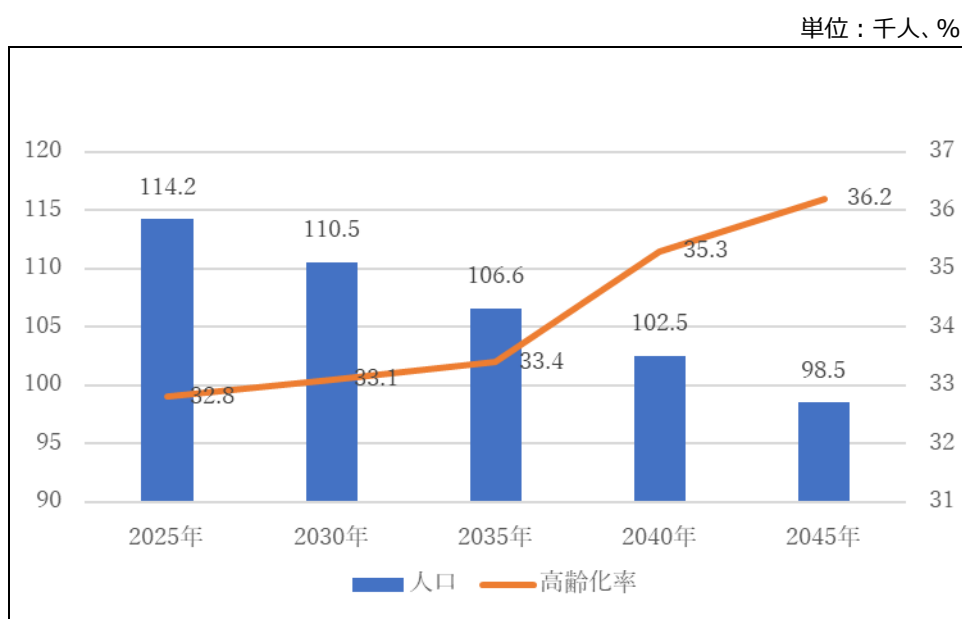
図表 2-9 愛媛県の65歳以上の申請免許取引件数の推移



出典：運転免許統計各年版2年版

将来人口は2035年には10万6,600人、2045年には9万8,500人と推計されており、高齢化率は2035年には33.4%、2045年には36.2%になると予測されている。免許返納者は増加しており、移動を自家用車に頼れない交通弱者の増加が予測される。こうしたことから、交通体系の見直しは喫緊の課題となっている。

図表 2-10 将来人口予測



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018年推計)」